

# 使用済みマンホールふた一覧

番号	名称・特徴	写真(表)	写真(裏)
1	世界デザイン博覧会記念ふた (丸八・赤色) 1989年製・重さ約35kg		
	平成元年に開催された世界デザイン博覧会を記念して製作されました。名古屋の名所のシルエットが散りばめられており、大変美しいデザインです。中心には、二羽の鳩で表現した市章「丸八」が配されています。		
2	世界デザイン博覧会記念ふた (丸八・黄色) 1989年製・重さ約35kg		
	平成元年に開催された世界デザイン博覧会を記念して製作されました。名古屋の名所のシルエットが散りばめられており、大変美しいデザインです。中心には、二羽の鳩で表現した市章「丸八」が配されています。		
3	世界デザイン博覧会記念ふた (丸八・青色) 1989年製・重さ約35kg		
	平成元年に開催された世界デザイン博覧会を記念して製作されました。名古屋の名所のシルエットが散りばめられており、大変美しいデザインです。中心には、二羽の鳩で表現した市章「丸八」が配されています。 ※裏面リブの一部が加工されています		
4	耐スリップふた 2011年製・重さ約45kg		
	マンホールふたの上で車両が滑りにくく、表面に細かな突起を多数配置したふたです。突起は三段形状となっており、最上段はタイヤのグリップを高め、中段・下段は水や砂を接触面から外周側へと逃がしてスリップを抑制します。		
5	プレート式ふた 2002年製・重さ約50kg		
	格子状の“たくさんのすき間”が、空気の逃げ道になるマンホールふたです。大雨で管の中に水が気に入ると空気が押され、マンホール内の圧力が高くなります。このふたは、その空気をすばやく外に逃がす必要がある場所に使われていました。		

番号	名称・特徴	写真(表)	写真(裏)
6	アメンボデザインふた (T25・合流) 2006年製・重さ約45kg		
	名古屋市上下水道局のイメージキャラクター「アメンボ」をあしらったデザインで、平成9年から採用され、現在は名古屋市で主流のマンホールふたです。合流区域用のため、四隅に通気穴を設けているのが特徴です。		
7	アメンボデザインふた (T25・分流汚水) 2021年製・重さ約45kg		
	名古屋市上下水道局のイメージキャラクター「アメンボ」をあしらったデザインで、平成9年から採用され、現在は名古屋市で主流のマンホールふたです。分流区域用のふたであることから、臭気の漏れや路面の雨水混入を防ぐために、通気穴が塞がれているのが特徴です。		
8	昭和後期型ふた (T20・ロック付き) 1992年製・重さ約45kg		
	昭和52年から平成9年のアメンボデザイン登場まで採用されていた、合流区域用のマンホールふたです。なかでも珍しいロック機構付きで、大雨などで管内水位が急上昇してマンホール内の圧力が高まって、ふたが跳ね上がらないよう固定する仕組みを備えています。		
9	昭和後期型ふた (T20・分流汚水) 1993年製・重さ約40kg		
	昭和52年から平成9年のアメンボデザイン登場まで採用されていた、分流区域用のマンホールふたです。臭気の漏れや路面の雨水混入を防ぐために、通気穴が塞がれているのが特徴です。また、用途を示す「汚水」と明記しています。		
10	名古屋市型ふた (合流) 1989年製・重さ約45kg		
	昭和8年から平成9年のアメンボデザイン登場まで採用されていた、「名古屋市型」と呼ばれる伝統的なマンホールふたです。蝶番がなく、枠に載せる平受け型のため、昭和52年に昭和後期型が登場して以降は、主に歩道部で用いられました。		